



ISET-R シンポジウム開催

2015年1月9日・10日筑波大学総合研究棟A



Courtesy of Japan Geoscience Union



2015年1月9日、10日の2日間にわたり「ISET-Rシンポジウム」を筑波大学総合研究棟Aにおいて開催しました。

ISET-R関係者や学生、海外からお招きした研究者など、2日間で総勢122名が参加し、世界をリードする新たな研究領域の形成を目指して活発な議論や意見交換が行われました。

1月9日の国際シンポジウム「International Symposium on Interdisciplinary Study on Environmental Transfer of Radionuclides from the Fukushima Daiichi NPP Accident」で

は、ISET-Rの大気・海洋・陸域・化学の分野からなる、A01-1班からA04-8班の各研究班代表より、福島原発由来の汚染状況の実態把握と放射性物質の移行・拡散過程の実態解明についての研究内容や成果についての報告がなされました。

各分野代表からの報告に対し、放射能環境動態についての研究を執り行っている海外研究機関からお招きした研究者より、これまでの研究成果に対する評価及び今後の展望についてのご意見をいただきました。

1日目 (9 January, 2015)

International Symposium on Interdisciplinary Study on Environmental Transfer of Radionuclides from the Fukushima Daiichi NPP Accident

Group A01 The effect of radionuclides on the atmosphere ～放射性物質の大気への影響

Teruyuki Nakajima (Univ. of Tokyo)

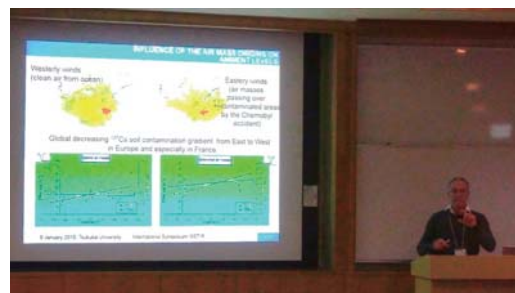
“Understanding of atmospheric transport modeling of fallout radionuclides and migration processes”

Yasuhito Igarashi (Meteorological Research Institute)

“Understanding of atmospheric deposition, diffusion processes and land atmosphere interaction of radioactive materials”

Olivier Masson (IRSN, France)

“Comments on atmospheric issues”



Dr. Olivier Masson

Group A02 The effect of radionuclides on the ocean ～放射性物質の海洋への影響



Dr. Pavel P. Povinec

Masatoshi Yamada (Hirosaki Univ.)

“Understanding the distribution of radioactive materials in sea and seafloor sediment”

Jota Kanda (Tokyo University of Marine Science and Technology)

“Understanding the migration and concentration of radioactive materials in marine ecosystems”

Pavel P. Povinec (Comenius Univ., Slovakia)

“Comments on ocean issues”

Group A03 The terrestrial migration of radionuclides ～放射性物質の陸域での移行

Yuichi Onda (Univ. of Tsukuba)

“Understanding the migration process of radionuclides associated with water and sediment movement”

Chisato Takenaka (Nagoya Univ.)

“Understanding the dynamics of radionuclides in terrestrial ecosystems”

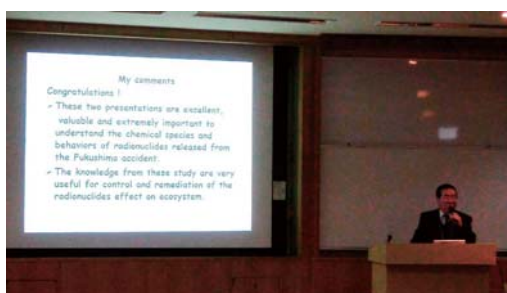
Sergey Fesenko (Environmental Lab. IAEA)

“Comments on terrestrial issues”



Dr. Sergey Fesenko

Group A04 The existence form of radionuclide and development of measurement technique ～移行に伴う放射性物質の存在形態および測定技術の開発



Dr. Chai, Zhifang

Masayoshi Yamamoto (Kanazawa Univ.)

“Development of microanalysis technology and chemical form of radioactive materials with migration”

Atsushi Shinohara (Osaka Univ.)

“Development of technology and radiation measurement in various chemical forms”

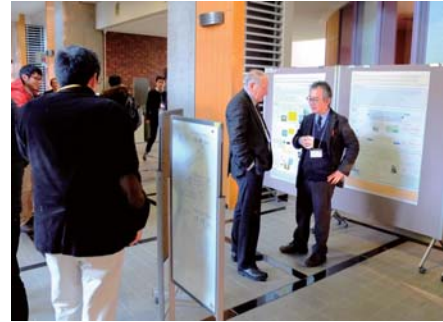
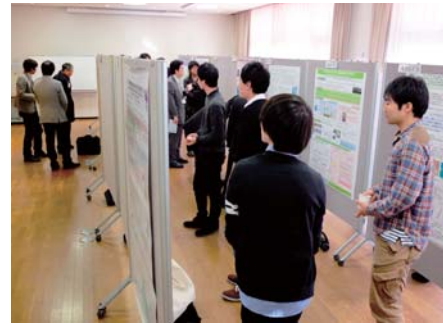
Chai, Zhifang (Institute of High Energy Physics, Chinese Academy of Sciences, China)

“Comments on chemical form and radiation measurements”

Poster Session

お昼に開催されたポスターセッションでは、1日目は各計画班より英語での研究成果のポスター発表、2日目にはISET-R関係者の多くの方からのポスター発表が行われました。

80枚以上に及ぶポスターの前で、発表者と参加者より様々な議論と情報交換が繰り広げられ、各研究をより深く知る、有意義なポスターセッションとなりました。



ポスターセッションの様子

懇親会

1日目のシンポジウム終了後には懇親会を行いました。総勢100名程が参加された懇親会では、ISET-Rの最重要課題の一つである放射能環境動態研究をリードする若手研究者の育成政策における、全分野プログラムへの参加達成者への表彰式が行われました。今年度の該当者である、脇山義史さん(筑波大学)・松永静さん(大阪大学)の2名に、領域代表より認定書が授与されました。

今後の彼らの活躍を大いに期待しつつ、来年度にはさらに多くの若手育成政策参加達成者が出ることを願います。

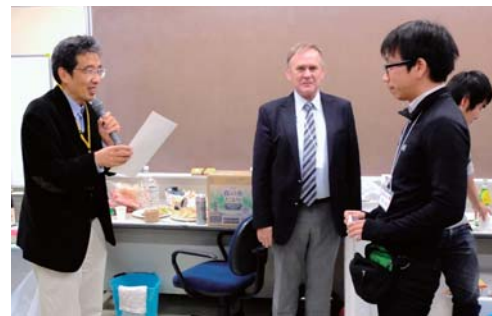
…… 受賞者のコメント ……

■脇山義史さん (筑波大学)

プログラムを通して貴重な体験をさせていただきました。講師ならびに関係者の皆さまに感謝申し上げます。経験を糧として今後の研究生活にまい進して参りたいと思います。

■松永 静さん (大阪大学)

私は普段、主に放射能などの測定をしています。フィールドワークでサンプル採取をしたり、今まで扱ったことのない試料を分析したり



領域代表・恩田先生より認定書授与



表彰された脇山さん(左)と松永さん(右)

と、異分野の実験、実習を通して「百聞は一見にしかず」を実感しました。また、他大学の学生さんと交流できたことで自分も研究をさらに頑張らなければという刺激を受けることもできました。このような貴重な経験をさせていただいたこと、先生方やスタッフの皆さまに感謝いたします。

2日目 (10 January, 2015)

福島原発由来の放射性核種の 環境動態に関する分野横断シンポジウム

「福島原発由来の放射性核種の環境動態に関する分野横断シンポジウム」では、午前中は最初に総括班代表・恩田教授(筑波大学)から、中間評価の概要報告と今後の研究領域の推進方策についての報告、続いて公募研究採択者によ

る研究進捗および成果についての報告がなされました。

午後は放射能環境動態研究所を担う外部研究機関の研究者をお招きし、研究の動向や展望についての貴重な意見交換を行うことができました。

今後の研究領域の推進方策

恩田裕一(総括班代表)



1. 連携研究の推進による新しい研究領域の具体化
2. 国際的な連携の推進
3. 若手育成の充実
4. 情報発信

この4点が最重要課題であり、今後の推進方策として掲げられた。



公募研究班

吉川知里(海洋研究開発機構)

福島原発事故由来の硫黄放射性位体モデルを用いた
硫酸塩エアロゾルの動態の解明

中井 泉(東京理科大学)

放射光ナノビームX線分析による大気粉塵中の放射
性物質の起源解明

張 勁(富山大学)

福島県河口域の放射性セシウムの移動と堆積状況の把握

内山雄介(神戸大学)

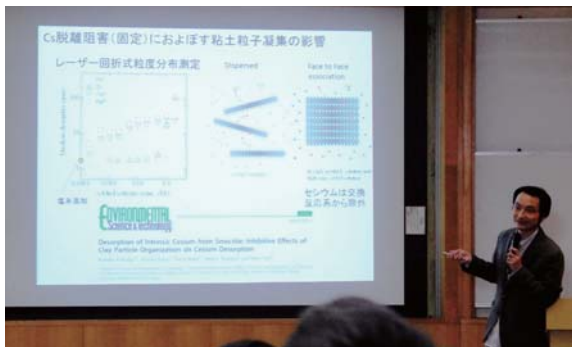
放射性核種の海域移行定量化に向けた統合型河口・浅海域土砂輸送解析システムの開発

猪股弥生(日本環境衛生センター)

最適内捜法による人工放射性核種の海洋汚染の実態解明

木内 豪【新谷 恵・小俣哲平】(東京工業大学)

粒径分布に着目した土壌流出現象の実験的検討と物理モデルの開発



福士圭介氏

吉村千洋(東京工業大学)

反応速度論に基づく水生生物のセシウム摂取モ
デルの開発

福士圭介(金沢大学)

福島第一原発周辺に分布する土壌粘土鉱物によ
るセシウム脱離予測モデル

福島和彦【青木 弾】(名古屋大学)

放射性セシウムの樹幹内における分布と存在形
態の動的解析



吉川知里氏

他機関における放射能環境動態研究

林 誠二氏(国立環境研究所) 国立環境研における環境放射能動態研究

飯島和毅氏(日本原子力研究開発機構) JAEAにおける河川水系動態モデル研究

柴田徳思氏(公益社団法人日本アイソトープ協会) 放射線被ばくの現状と今後の予測について

全ての講演が終わった後、討論会が行われました。講演者を囲みそれぞれの分野から活発な議論
が繰り広げられ、今後の新学術研究の発展性について熱い議論が交わされました。

2日間にわたって開催された本シンポジウムは、盛況のうちに幕を閉じました。

謝辞 本シンポジウムの開催にあたり、日本地球惑星科学連合より協賛をいただきました。
ここに記して謝意を申し上げます。

※シンポジウムの講演資料は、ISET-R WEBSITE(<http://www.ied.tsukuba.ac.jp/hydrogeo/isetr/>)に掲載しています。